

混成競技



混成競技

1 混成競技審判長

(1) 任務

混成競技審判長は必要に応じて1名以上任命される（CR18.1）。ただし、十種競技と七種競技が同日開催で行われる場合は、種目数が多くなることから、複数任命するか、一部の種目をトラック審判長、フィールド競技審判長に委譲しておくことも必要である。

任務については、CR18に準じ、監督責任、技術的な問題の処理、成績の確認、異議抗議への対応など、混成競技全般の責任を負う。

(2) 権限

混成競技審判長は以下の権限を有する。

- ① 警告と除外（TR7.1）
- ② 競技結果を無効としたやり直し、また競技者保護の観点からの競技の中止を命じる（CR18.7と〔国内〕）
- ③ 競技開始時刻の変更（TR39.6）
- ④ 組またはグループの再編成（TR39.7）

※ 特に十種競技やり投は、前の種目の棒高跳の進行状況と最終種目の1,500mの競技日程等を考慮して急遽グループ分けを行うことがある。その場合は、やり投の最初のグループは、棒高跳を前半に完了した競技者（十種競技に参加している競技者の半分にできるだけ近い数）によって作るなどの工夫をする。

(3) 実施要領

① 競技開始前

- ・「トラック競技審判長」及び「フィールド競技審判長」参照
- ・他の審判長と役割について十分に打合せておくことが望ましい。
- ・競技の進め方など競技者へ連絡事項がある場合の伝達方法などを混成競技係と確認しておく。例として、控室前にホワイトボードを置き、次の種目の集合時間などの連絡や、競技結果を掲示する方法がある。各日の最初の種目は、招集所に集合することが多いので、この連絡方法も利用する旨を競技

者にも伝える。

② 競技中

以下の混成競技独自のルールに留意する。

- ・不正スタートの扱い (TR16.8, TR39.8.3)。
- ・走高跳・棒高跳のバーは、残りの人数に関係なく上げ幅は一律とする (TR26.4)。ジャンプオフの非適用。
- ・長さを競うフィールド競技種目は3回の試技で終了 (TR39.8.1)。
- ・不正スタートなどの失格をした種目があっても競技は続行することができるが、1種目でもスタートしなかったか、1回も試技しなかった場合はそれ以降の種目に参加することはできない。途中棄権をする場合は、ただちに混成競技審判長に申し出るようにさせる (TR39.10)。

フィールド種目の試技時間については、以下のとおりである (TR25.17)。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	2分	3分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※ 4人以上または各競技者の最初の試技は1分とする。

※※ 単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数が2名以上の時に適用し、走高跳、棒高跳では高さが変わった場合でも適用する。

① 順位のつけ方

現行のWA混成競技採点表を用いて、各種目の記録に応じた得点が個々の競技者に与えられる。その合計得点で最終順位が決定する (TR39.11)。

2人以上の競技者の総合合計総得点と同じだった場合は、どの順位についても同成績とする (TR39.13)。

② 記録の扱い

- a) 混成競技の総得点は、定められた条件のもとで達成されたものであっても、風力計測が求められる種目の平均風速が

+2.0mを超えると、追風参考記録となる（CR31.18）。

- b) 混成競技の個々の種目の記録は、単独種目の記録としても認められる。しかし、風力計測が求められる種目は単独種目と同様の条件が必要である。ならびに、混成競技のトラック種目で許されている1回の不正スタートがあった場合は、単独種目の記録として扱うことはできない（CR31.14.4）。

混成競技の結果表

（注）大会記録、競技者名、所属などは競技結果から省いてある。

順位	ナンバー	100m	LJ	SP	HJ	400m	110mH	DT	PV	JT	1500m	合計	備考
1	41	11.20(+1.6)	7.12(+1.0)	12.00	1.90	49.67	16.36(+1.9)	38.97	4.20	51.55	4.38.98	7118	
		817	842	606	714	830	693	644	673	612	687		
2	53	11.29(+0.3)	6.61(+1.4)	10.89	1.85	50.91	15.21(+0.8)	37.89	4.10	53.48	4.56.91	6811	
		797	723	539	670	773	824	622	645	640	578		
2	15	11.24(+0.3)	6.63(+1.4)	11.75	1.93	51.30	15.37(+0.1)	31.92	4.00	47.29	4.34.44	6811	
		808	727	591	740	756	805	502	617	549	716		
4	54	11.26(+0.3)	6.40(+1.8)	10.07	1.75	51.98	15.80(+1.9)	31.06	4.00	41.50	4.40.50	6278	
		804	675	490	585	726	755	485	617	464	677		
5	45	11.35(+1.6)	6.93(+4.2)	11.87	1.93	52.56	14.66(+0.8)	35.70	NM	44.49	4.46.01	6240	平均風速+2.2m
		784	797	599	740	700	891	578	0	508	643		追風参考
		2番目の記録 6.63(+3.3)/727点											
6	49	11.05(+0.3)	6.46(+4.6)	11.77	1.80	49.36	15.42(+0.8)	28.16	3.80	45.48	6.03.70	6165	
		850	688	592	627	844	799	428	562	526	249		
7	86	11.11(+0.3)	6.40(+1.0)	12.16	NM	49.87	15.81(+0.8)	36.42	3.60	44.15	4.41.88	5975	
		836	675	616	0	821	754	592	509	503	669		
8	42	11.80(+0.3)	6.05(+3.5)	10.76	1.80	53.87	16.38(+0.8)	29.71	4.00	49.57	5.06.80	5963	
		691	597	531	627	645	693	459	617	582	521		
DNF	31	11.10(+1.6)	6.34(+1.3)	10.74	1.75	51.89	15.42(+1.9)	DNS					
		838	661	530	585	726	799						

- ・ ナンバー 53番と15番は共に6811点なので第2位。
- ・ ナンバー 45番は風力計測が求められる種目の平均風速が+2.2mであるため追風参考記録として扱われる。走幅跳の2番目（または3番目）の記録を採用して、平均風速が+2.0mを超えなければ、その記録が大会記録や別大会の資格記録として有効となる。この場合、仮に2番目の記録が6.63m(+3.3m)727点なら、合計得点は6170点となる。6240点は追風参考記録であるが、この記録で順位を決定する。追風参考記録でもその競技会で順位を決めるうえでは問題はない。

混成競技における記録の得点換算方法

混成競技は達成された記録をすべて得点に換算し、合計得点の高い順番で競技者の順位を決定するが、各記録の得点換算方法は以下の通りである（2005年1月1日現在：WA）。

(1) 換算一般式

トラック種目：得点＝定数 a × 〔(定数 b 一秒単位の記録) 累乗定数 3〕

(注意) 手動計時による記録については以下の処置を施す

400m未満の場合 : 0.24秒を加える

400mの場合 : 0.14秒を加える

400mを超える場合：そのまま一般式に代入する

跳躍種目：得点＝定数 a × 〔(cm単位の記録一定数 b) 累乗定数 3〕

投てき種目：得点＝定数 a × 〔(m単位の記録一定数 b) 累乗定数 3〕

【それぞれの一般式には累乗（幕（べき）計算）が含まれており、やや複雑な計算となるが、いずれの場合も、算出された数値の小数点以下は切り捨てて得点とする。】

(2) a, b, cの各定数

《男子》	定数 a	定数 b	累乗定数 c
100m（電気計時）	25.4347	18.00	1.81
200m（電気計時）	5.8425	38.00	1.81
400m（電気計時）	1.53775	82.00	1.81
1,500m	0.03768	480.00	1.85
110mH（電気計時）	5.74352	28.50	1.92
走高跳	0.8465	75.00	1.42
棒高跳	0.2797	100.00	1.35
走幅跳	0.14354	20.00	1.40
砲丸投	51.39	1.50	1.05
円盤投	12.91	4.00	1.10
やり投	10.14	7.00	1.08

(室内競技)

60m (電気計時)	58.0150	11.50	1.81
1000m	0.08713	305.50	1.85
60mH (電気計時)	20.5173	15.50	1.92

《女子》

200m (電気計時)	4.99087	42.50	1.81
800m (電気計時)	0.11193	254.00	1.88
100mH (電気計時)	9.23076	26.70	1.835
走高跳	1.84523	75.00	1.348
走幅跳	0.188807	210.00	1.41
砲丸投	56.0211	1.50	1.05
やり投	15.9803	3.80	1.04

(十種競技)

100m (電気計時)	17.8570	21.0	1.81
400m (電気計時)	1.34285	91.7	1.81
1,500m	0.02883	535	1.88
棒高跳	0.44125	100	1.35
円盤投	12.3311	3.00	1.10

(室内競技)

60mH	20.0479	17.00	1.835
------	---------	-------	-------

(3) 得点換算の具体例

- 1) トラック種目：100mの電気計時記録が11.26秒の場合

得点 = $25.4347 \times [(18.00 - 11.26) \text{ の } 1.81 \text{ 乗}]$

$$25.4347 \times 31.6136 = 804$$

- 2) 跳躍種目：走幅跳が6m80の場合

得点 = $0.14354 \times [(680 - 220.00) \text{ の } 1.40 \text{ 乗}]$

$$= 0.14354 \times 5343.9325 = 767$$

- 3) 投てき種目：砲丸投が14m50の場合

得点 = $51.39 \times (14.50 - 1.50) \text{ の } 1.05 \text{ 乗}]$

$$= 51.39 \times 14.7788 = 759$$

混成競技で2ピットを使用する時の運用方法

混成競技の出場者が多いとき、走幅跳、走高跳、棒高跳では可能であれば2ピットを使用して、競技時間の短縮を図るべきである。

走高跳と棒高跳においては、競技力の差によって、「低い高さから始める組」と「高い高さから始める組」の、できるだけ人数に片寄りがないか、または、予想される競技時間に大きな差がないように、2グループを編成するのが効率的である。

2グループはそれぞれ独立しており、競技者に許される試技時間は平等でなければならない。したがって、「低い高さから始めた組」であっても、残った競技者数が2～3人になった場合には走高跳で1分30秒、棒高跳で2分の試技時間を与えなければならず、1人になった場合は走高跳では2分、棒高跳では3分を与える。

混成競技における順位を示すアスリートビブス

男子10種目（高校生＝8種目）女子7種目で行われる混成競技は、走・跳・投の要素を組み合わせ、それぞれの種目で得た記録をすべて得点に換算し、その合計得点で順位を競うものである。そして最終種目には男子1,500m、女子800mの中距離種目が行われる。

競技会によってはスタート前に「現在のトップはA（競技者名）で〇〇点。それをBが△△点差で追っています。その差は1,500mの時間にして□□秒、距離にすると約〇〇m。逆転も十分ありえます」等と興味を引き付けるアナウンスも多く聞かれるようになってきた。しかし、誰がその時点での総合順位トップで、誰が2番目なのか、いざ走り出してしまうと集団の中にな紛れてしまい、よほど特徴あるユニフォームでも着用していない限り見つけることは容易でない。

そこで考え出されたのが、最終種目のスタート前に、そこま

での総合得点の高い方から「1」「2」「3」と順番を示す特別アスリートビブスを装着させる方法である。ただし、両面とも変えてしまうと個人の特定ができなくなってしまうので、前面だけ順位番号、背面は個々の番号をつけていることが多い。しかし競技者からは「後ろに順位があった方がマークしている競技者がわかりやすい」という声もある。

この他にも、合計得点順に腰ナンバー標識を1から順番に振っていくという方法もある。前後でアスリートビブスが変わることの混乱もなく、スタンドから観戦するにはこの方が見やすいかもしれない。この場合はスタートの整列順が内側から成績の良い順となる。

いずれにしても、競技者ナンバーと異なる特別なアスリートビブスや腰ナンバー標識を着用する場合には、競技注意事項や申合せ事項に明記したり、レース前にアナウンスすることが必要である。

2 混成競技係

(1) 任務

混成競技の円滑な進行のために、総務員や関係審判員（競技者係、出発係、跳躍審判員、投てき審判員、記録・情報処理員、表彰係など）との連絡調整にあたる。また、怪我、体調不良等で途中棄権する競技者がいるので、競技場所に帯同し、競技者の参加状況を常に把握する。次の種目の集合時間など、審判長から競技者へ連絡事項がある場合は、その伝達方法も確認し、確実に競技者に伝わるように配慮する。

(2) 配置

主任1

係員5（誘導係3、控室係2）

同日に男女の種目があったり、競技者数によってピットが複数に分かれたりする場合もあるので、適宜配置数や男女の数を工夫する。

(3) 業務内容

① 主任

- (a) 主任は混成競技審判長の指示を受け、各関係部署の主任と連携を緊密にとり、連絡事項を係員に徹底させることにより、競技が円滑に進行できるようにする。
- (b) 競技者が途中で競技を棄権する場合、総務、混成競技審判長、各関係部署の主任へ確実に連絡する。
- (c) 各係員の役割分担（誘導、控室係等）を明確にすると共に、常に綿密な連絡がとれるよう指揮する。特に誘導係は、他の部署の役員が手薄な場合は競技場所での役割が多いので、具体的な役割を確認し、指示する。
- (d) 第1日目、第2日目の第1種目の招集に立ち合い、必要に応じて競技者に注意事項および連絡事項を伝達する（第2種目以降の招集時間や方法など）。
- (e) 競技に立ち合い、円滑に進行できるよう、現場審判員と連絡を密にとり、協力する。
- (f) 番組編成や競技日程に変更が生じた場合には、混成競技審判長の指示により、すぐに当該部署と連携を取ると共に、競技者に速やかに伝える。

② 誘導係

- (a) 招集所で招集しない種目の点呼を行い、混成競技控室から各競技場所に誘導し、担当審判員に引き継ぐ。点呼の結果、欠場があれば、それも記載されたスタートリストを確実に引き継ぐ。
- (b) ケガやトイレ等で競技者が競技場所から離れる場合、主任に連絡し、付き添う。ケガや体調不良の場合は速やかに医療員に連絡する。
- (c) フィールド種目で、指導者からのアドバイスを受けるために、競技場所とトラックを往復する際の安全確認は、本来マージャーの務めだが、手薄な場合は誘導係が代行する場合がある。あわせて、審判長の許可が必要なスタンドとの物品のやり取りがないかどうかの監視が必要な場合がある（TR6.4.6）。これらは混成競技係主任の指示を仰ぐ。
- (d) フィールド競技で試技が終了した競技者の退場ルートが定

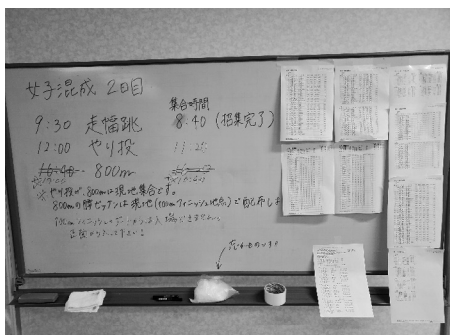
められている場合（ミックスゾーンを通るなど）は、その誘導を行う。

③ 控室係

- (a) 競技者が落ち着いて休養できるよう環境を整える。競技者以外（コーチや付き添い）の立ち入りが制限されている場合は、その監視をする。
- (b) 成績一覧表や番組編成を記録・情報処理員から受け取り掲示する。
- (c) 競技時刻変更や審判長からの連絡等の情報を速やかに競技者に伝える。
- (d) ホワイトボードを使用する場合は、そこに表示する内容も管理する。

(4) その他混

混成競技独自のルールに留意する（「混成審判長(3)実施要領②競技中」参照）。



混成競技控室の掲示の例

七種競技 800 mの適正人数

単独種目の1,500mは15人前後、800mはレーン数に合わせて8人で編成されることが一般的である。では、混成競技の最終種目の場合はどうであろうか？

参加人数が38人と定められているインターハイでは、例年男子は19人ずつ2組。女子は5組に分けて編成される事が多いようである。

混成競技の最終種目においては「大会記録の更新なるか？」「優勝はどちらか？」「メダルがもらえる3位入賞に入れるか？」「賞状がもらえる8位入賞は？」といったところに妙味がある。

1,500mでは、スタート前の段階で入賞圏外にいる競技者も同時にスタートするので、入賞争いを直接対決で行われるが、800mで8人の編成となると、「総合順位は最終組の結果を見てのお楽しみ！」となってしまう、観戦する側、競技する側それぞれにとっての勝負の面白さの一つを失うことになりかねない。

そこでこの問題の対処方法として、

- ① TR20.4 [注意] により、1つのレーンに2名いれて編成する。
- ② TR17.5.1 [国内] i 孤形のライン後方からグループスタートで行う。等が考えられる。

800mで最初の曲走路をレーンで走らせるのは、接触・転倒・妨害等の事故を防ぐためであるが、走力に差がある混成競技においては、安全性を確保する事が大前提であるにしても、競技の醍醐味を大事にすることも必要であろう。混成競技審判長を担当される際、ぜひ一考頂きたい。

少なくとも、9レーンある競技場においては、最終組の人数は9人以上で実施することを推奨する。